

ち^ャふ^{ヂャ}ち^ャふ^{マン}ま^ト共^ニ

美浦村立美浦中学校 二年 大竹 彩菜

「ち^ャふ^{ヂャ}ち^ャふ^{マン}ま^デい^イや^ロ

「早く食べち^ャいなさい^ロ

毎朝のように学校に行く時は、こんな会話で朝は始まる。ち^ャふ^{ヂャ}ち^ャふ^{マン}まとは、母が小さい頃から使っている言い方で、おみそ汁の中にごはんを入れる、世間で言うねこまんまの事だ。ひびきが気に入って、私もずっとこの言い方で成長してきた。私は、朝からあまり食べられない。食べなくてはいけない事は承知しているがどうしても量が食べられない。でも、不思議な事にち^ャふ^{ヂャ}ち^ャふ^{マン}まにするとお茶碗一杯分のごはんは食べられる。私は、未熟児に近い体重で生まれてきた。母は成長することには大変心配しながら私を育ててくれたと聞いている。今の私の身体を作ってくれたお米に感謝している。

私の通学路には、水田が沢山ある。五月頃には田植えがあり、稲刈りが始まると秋だ。

と季節を感じる。セミの音、少し涼しくて気持ちの良い風と共になびく黄金色の稲を見るのが私は好きだ。嬉しい時、テストの点でへこんだ時でも稲は私に優しく語りかけて励ましてくれる。いつまでもこの風景を大切に一日一日を過ごしていきたい。稲と一緒に成長していきたいと思う。

私には、いつも思っている言葉がある。それは、「一粒万倍」だ。この言葉は、中学校の先生が教えて下さった言葉で、「一粒の種が万倍となって稲穂のように実るという意味だ。少しでも粗末にできない気持ちを表しているそうだ。」ただきまずい。毎日言っている当たり前のあいさつだが、命を頂いていることを気づかされた。

お米を作るには、種まき・田おこし・田植え・雑草防除・中干し・稲刈り・出荷・土の養分の手入れなので丸一年かかる。毎日見ているから本当に手がががっているのが分かる。

暑い日、寒い日、天気が悪くても一生懸命育
ててくれている姿を見ると、一粒も無駄にし
てはいけない気持ちが強くなる。

三月、四月から始まるお米には、自分も重
ねてしまう。稲が立派に成長して、刈り取る
頃には自分も立派な人間になれるようお米に
お米を育ててくださっただ方に恥じないように
成長していきたいと思っている。

ただ、心配していることがある。それは、
日本は今、高齢化が進んでいて米を作る若者
がいなく、このままだと美味しいお米が食べ
られなくなってしまうことだ。私達が次の世
代にも伝えていかなければいけない。これが、
使命だと考えている。

「実るほど頭を垂れる稲穂かな」これも、
祖母から母に、母から私に教えてもらっ
た言葉だ。人格者ほど、けんきよであれという意
味だ。私も、この意味を用いてこのよう
な人になりたい。

お米には、パワーの源となるでんぷんなど、

タンパク質・脂肪・ビタミンB1・ビタミンEなどの栄養素がふんだんに含まれていて、栄養の宝庫と言っても良いくらいだ。ながても、成分の七割以上を占めるでんぷんは極めて質が良くて、消化・吸収も高いため、力をたくわえ、持続するといわれている。このように、体内に入る事で身体を成長させてくれる。もう一つ、一年かけて稲から育つ様子で私の心まで成長させてくれる。お米は、なくてはならない存在になっている。一年後、立

派な稲のようにもつと私は成長したい。

私も、いつか子供が出来たら、お米の大切さを教えると共に言うと思う。

「ちやぶちやぶまんま頂きます」